

令和7年度 教育行政執行方針

掲載の教育行政執行方針は広報用に編集しています。原文は町ホームページまたは役場2階教育委員会（14番窓口）、庶路支所で見ることができます。



川島眞澄教育長が令和7年第1回白糠町議会定例会において、教育行政執行方針を述べました。

1 はじめに

能登半島地震で幕開けとなった令和6年は、局地的な大雨や線状降水帯による豪雨の多発、記録的な猛暑の長期化など、自然環境の異変を改めて実感する年となりました。一方で、2024年パリオリンピック、パラリンピックにおける日本選手団の功績は記憶に新しく、世界で活躍する姿は大きな感動を呼ぶものでした。特に北海道出身の北口榛花選手の、やり投げを楽しむ気持ちを忘れずに挑戦し続ける姿勢は、これからの子どもたちに求められる姿と重なり、大変心強く感じました。

我が町に目を向けましても、各種スポーツや文化活動を通して、子どもたちの活躍する姿を見ることができました。

さて、現行の学習指導要領の全面実施から数年が経とうとしています。昨年末には中央教育審議会から「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の諮問もあり、次期学習指導要領の改訂も見据える必要がありますが、最も大切なことは、これまで

の取り組みを検証し、改善に結び付けることです。その際「ふるさと教育」の行動目標である

- ・心の角度を変えてまちを見つめ直せる人
- ・他人のために汗を流せる人
- ・足元の材料を耕し直せる人

これらを改めて確認する必要があります。

よって、令和7年度は「ふるさと教育」を基軸とした教育および現行の学習指導要領に基づいた実践を充実させる視点をもち、目の前の子どもたちが未来に向け、持続可能な社会の創り手となり得るよう、教育活動を推進することが重要であると考えています。

学校教育では、各種調査等の結果において自己肯定感やICT機器の活用頻度について改善の傾向が見られるものの、主体的に学びに向かうことができていない子どもたちが一定数いることや、協働的な学びの質の向上に課題が見られています。

本年度は、これらの課題の解決に向けた取り組みを実践するとともに、学校間・保護者・地域が協働して取り組むことができる教育課程となるよう、教育活動の充実

定し、実践的な語学力の向上に努めていきます。

2 豊かな心と 健やかな体の育成

子どもたちが「たくましく、しなやかな心をもって人や社会と積極的に関わって生きていく力」を身に付けることができるよう、次の3点を重点に推進します。

一つ目は「生徒指導の実践上の視点を意識した教育活動の推進」です。「生徒指導提要(改訂版)」では、子どもたちが個性を伸ばし、社会性を身に付けるよう働きかけることの重要性が示されています。これらは豊かな心の醸成を目指す道徳教育の推進にも通じる視点です。改めてこれらを踏まえた、生徒指導および道徳教育の充実に取り組んでいきます。

また、白糠町生徒指導研究協議会と連携し、子どもたち自らが、いじめの未然防止や望ましいコミュニケーションの在り方等を考える「子ども会議」を開催します。加えて、専門性の高い音楽家による、音楽活動への支援や音楽の授業サポート、教育課程外の演奏等

を図っていきます。

また、社会教育では、各世代の生涯を通した学びを支援、健康で心豊かな人生を送ることができるよう、多様な学習・文化芸術・スポーツ活動に触れる機会を提供するほか、町民が郷土に対する愛着や誇りを自覚できるよう、誰もが主体的に学び、交流し、支え合う地域社会づくりに向けた取り組みを進めていきます。

教育委員会は、恵まれた自然環境、産業、文化などを融合した「白糠町だからできる白糠町らしい教育」を大切にし、子どもたちがこの町の良さを感じ、主体的に学びに取り組むことができるよう、最善を尽くしていきます。

2 学校教育の充実

1 実社会で生きる 実践的な力の育成

子どもたちが未来に向け、持続可能な社会の創り手として成長できるように、次の3点を重点に推進します。

一つ目は「これからの社会を生



料理やゲームなど、授業以外の場でALT（外国語指導助手）と楽しみながら英語を学ぶ「ECクラブ」。

を通して、豊かな情操の育成に向けた取り組みを推進していきます。二つ目は「体力の向上と望ましい生活習慣の確立」です。体力・運動習慣に係る各種調査結果を活用し、授業改善の推進および家庭に向けた運動習慣確立の啓発、運動機会の創出などに努めます。

三つ目は「地産地消や環境を考慮した食育の推進」です。地元生産者の協力のもと「ふるさと給食」を継続・拡充するとともに、食育を通じて残食を減らすよう努めます。また、給食を安全かつ安定的に提供するため、経年により老朽化しつつある調理機器等を計画的に更新します。

きる子どもたちに必要な資質・能力の確実な育成」です。本年度においても各種調査等の結果および子どもたちの実態を踏まえた不断の改善を継続するとともに、環境教育に係る教育活動を再編し、より質の高い教育課程の実現を目指します。また、0才児から15才までの一貫した幼児教育と学校教育の連携の充実に努めます。

これからの社会を生きる子どもたちに必要な資質・能力の育成に向けては「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。これらの視点を再確認し、授業改善に努めていきます。

また、これまでのICT機器を活用した授業実践を生かしながら、単元で達成すべき資質・能力の育成に適した個の学びの深化ならびに協働的な学びの創出や、子どもたちが主体的に学びを獲得するツールとしてのICT機器の利活用を図っていきます。

二つ目は「ふるさと教育および環境教育の充実」です。持続可能な社会づくりに貢献する人材の育成には、白糠町の資源を見つめ直